

JAFTAB

NEWS

日本貿易学会

No.86

Jul. 2019

本部	〒370-1214 高崎市根小屋町 741 高崎商科大学 商学部 吉岡秀輝研究室
事務局	〒500-8288 岐阜市中鶉 1-38 岐阜聖徳学園大学 経済情報学部 河野公洋研究室
東部事務局	〒279-8550 浦安市明海 1 明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部 三輪祥宏研究室
西部事務局	〒581-8511 八尾市楽音寺 6-10 大阪経済法科大学 国際学部 高砂謙二研究室

ご挨拶

会長 吉岡秀輝（高崎商科大学）

第 59 回全国大会が松山大学を主催校として開催されました。実行委員長である上羽博人先生が 1 年前から準備を始められ、お蔭をもちまして大会は成功裏に終えることができました。改めてお礼申し上げます。

この全国大会ではまた理事選挙も行われ、東部 7 名、西部 6 名の新理事と東西各 1 名の監事が選出されました。新たな理事会のもと会長選挙の結果、私が会長に推挙されわけですが、大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでいます。先代会長（第 27 代）の篠原敏彦先生、先々代会長（第 26 代）の藤澤武史先生の敷いてこられた路線を継承しながら、自分らしさを多少とも出せればよいと思っております。

さて、去る 6 月 28、29 の両日、大阪南港の国際見本市会場において 20 カ国・地域首脳会議（G20 大阪サミット）が開催されました。マスコミ報道によりますと、「米中貿易戦争」の激化を配慮して、首脳宣言では「保護主義と闘う」という文言は使わず、「自由で公正、無差別な貿易体制を推進する」に置き換えられたといえます。そして、この理念を体現するために、「機能不全」に陥っている WTO の改革の緊急性が提唱されることになりました。ほかにも喫緊の問題として地球温暖化、気候変動への取り組みといった環境保全も議題に取り上げられました。環境問題は、従来、生態学的なアプローチが主流でしたが、当学会においても、貿易や国際投資を通じた環境保全への取り組みも重要な研究課題となります。この分野の研究者、特に若手研究者が今後、さらに増えていくことを期待しています。

貿易学会は、来年度、第 60 回記念全国大会を開催します。この年は、ご承知のとおり、東京オリンピック・パラリンピックイヤーでもあり、人も物流も混雑が予想されています。そんななかでの東京開催は、誰しも二の足を踏むところではありますが、早稲田大学の田口尚志先生が快く主催校を引き受けてくださいました。目下、会場の確保、日程調整などご苦勞をおかけしております。

ところで、1990 年の第 30 回記念大会も早稲田大学で開催されました。この大会には私も参加していて、初代会長である上坂西三先生を記念しての開催だと側聞しています。上坂先生は、言わずと知れた、戦前・戦後期における貿易商務論の第一人者であり、長年にわたり早稲田大学で教鞭を執られました。そのようなゆかりの深い早稲田大学で来年、記念大会を開催できることは、この上ない喜びであり、成功に向けて会員の皆様方のご協力をぜひともお願い申し上げます。

2019 年 8 月

JAFTAB ニュース「デジタル版」への移行のご案内

当学会では、3期前（篠原理事の初回会長就任時）より、学会財政の健全化に取り組み、経費の削減に努めて参りました。新理事会でも、継続審議となり、7月13、27日に行われました東西の理事懇談会（理事24名中18名の出席者がありましたので、理事会議決事項となります。）にて、長らく年2回発行・郵送してまいりました「JAFTAB ニュース」をPDF版にてメール配信する事になりました。部会の予定など様々なお知らせをホームページやFACEBOOKにてお伝えする環境が整った事などが主な理由です。次号（No.87）より、写真などをカラー版にして紙面を増補してお届け致します。尚、学会HPにも掲載する予定ですから、これまで掲載してきた新入会員のご住所などをはじめとする個人情報、掲載致しません。予めご了承下さい。

これにより、これまで20万円程度予算措置をしておりました経費は、本年度半減、次年度からなくなり、他の学会活動活性化のために執行する事になります。

1. 全国大会について

①第59回全国大会に係る報告

愛媛県松山市にて、上羽博人実行委員長（松山大学）とゼミの学生さん達のホスピタリティ溢れるご尽力の中、2019年5月24日（金）エクスカッション、25日（土）自由論題、統一論題、会員総会、懇親会、26日（日）自由論題という日程で、盛会のうちに開催されました。

エクスカッションでは、隣接する今治市で開催された「バリシップ2019」（国際海事展）の視察を行いました。

②次期全国大会主催校の件【2020年第60回全国大会開催に関して】

第60回全国大会は、2020年に早稲田大学にて開催されることが決定致しました。同大学の田口尚志大会準備委員長を中心として準備作業に取りかかります。詳細は、決定次第、ホームページ、Facebook およびJAFTAB ニュースなどにてお知らせ致します。

2. 2019年度 第1回 日本貿易学会全国理事会 議事録（抄）

日時：2019年5月24日（金） 15:00～18:00

場所：松山市立子規記念博物館 2階会議室

出席者：（敬称略）

会長 篠原 敏彦

東部理事 岩田伸人、加藤孝治、鎌田信男、山本雄一郎、吉岡秀輝、米澤聡士

西部理事 男澤智治、栗原理、河野公洋、鈴木清巳、花木正孝（上羽博人）

監事 山本崇雄 幹事 石川雅啓、宋俊憲

定足数24名に対して13名（欠席届11名）理事会は成立

【報告事項】 第1号議案 2018年度事業報告

- (1) 部会報告（ホームページなどをご覧ください。）
- (2) 『学会誌』（ジャーナル）および『リサーチペーパー』の査読結果
- (3) JAFTAB NEWS の発行
- (4) 学会ホームページの運営状況
- (5) 国際交流について
- (6) 日本貿易学会賞について
- (7) 学術著作権協会への委託契約の更新について

【審議事項】（抄録）

第2号議案 会員の入会・退会等

新設されたシニア会員が12名になった件、入会11名に対して、退会者23名という本会全体としては、会員の減少傾向について、活発に議論がなされた。

第3号議案の2018年度決算（案）

支出に占める学会誌（ジャーナル）の印刷経費が突出して高負担な点等が議論された。適正に会計が行われている旨、監査報告があった。

会員の個人情報について、適正に処理されている旨の監査報告もあった。

第4号議案 2019年度事業計画（案）

創設60周年記念事業について、議論を重ねた結果、会員減少の折、質実共に効果を考えた事業を行う事で、篠原会長が降板後も、60周年記念事業委員長として引き続き次年度（2020年60回大会）、次々年度（2021年60周年）に向けて、検討することとなった。

研究費助成制度の新設について、資料に基づき説明があり、大変活発な議論の後原案通り可決された。（詳細は別頁）

3. 会員総会議事録（抄）

2019年度 第59回全国大会会員総会が、下記の通り開催された。

日時：2019年5月25日（土）16:30～17:30

場所：松山大学 樋又キャンパス

議長 篠原敏彦会長

【報告事項】理事会と同じ

【審議事項】

第2号議案 会員の入会・退会等（別頁）

第3号議案 2018年度決算（案）

第4号議案 2019年度事業計画（案）

・研究費助成制度の新設について ・創設60周年記念事業について

第5号議案 2019年度予算（案）

第6号議案 研究費助成制度に関する内規について

第7号議案 次期全国大会主催校について

報告事項、審議事項と質疑の中から、下記件について抄録

① ホームページのアクセス状況

ホームページの新規来訪者に比較して、リピーター（会員であろう方）が1/30以下と、会員の閲覧が極端に低い。部会開催など、最新の情報を掲載するため、是非ご高覧頂きたい。併せて、Facebookの閲覧者は多いものの、登録者・「いいね！」が極めて少ない。利活用をお願いしたい。 学会ホームページ→



② リサーチペーパーの投稿者減少について、査読を厳格に行っていた創設時と違い、どなたでも投稿できる環境に整っている為、奮って応募頂きたい。

また、執筆と公刊の時間的ギャップを解消するため、締め切りを9月、3月と年2回にした。昨年度、米澤委員長がまとめ直した投稿規定に従い、応募→審査→校正→公開と、校正終了後順次掲載も可能である。口頭での研究報告と論文化の双方で、個人のひとつの研究業績となる点から、全国大会、部会報告後は、奮って寄稿頂きたい。また、書評、研究ノートなどの応募をお願いする。

③ 支出における出版費用の占める割合の高さについて、3社程度の見積もりを取って、会員の利益を優先する。

④ 当JAFTABニュースのデジタル配信については、会員動静などプライバシーに配慮しなければならないものは現状通りだが、他のニュースについてはデジタル化する方向で、検討する。（継続審議の結果、デジタル化が決まりました。）

- ⑤ 広報について、継続的に会員獲得に努め、実業界や社会人入学の院生を含む大学院生などへの呼び掛けを実施し、会員募集の条件の緩和などを含めた幅広い広報活動を検討する。
- ⑥ 研究助成制度について（詳細は次項）

4. 研究助成制度の利用について

2年越しで、検討を続けてきました、「研究助成制度」が、2019年度理事会にて承認、会員総会で報告されました。会則3条に基いた、学会の研究活動活性化の施策のひとつです。以下、募集要項についてお知らせ致しますので、奮ってご応募下さい。

① 応募資格

応募資格者(研究代表者)は、本学会の個人会員(正会員、一般会員、シニア会員、学生会員を含む)および法人・団体会員で、該当年度の会費を納めている者とする。共同研究の場合に、研究代表者以外の研究分担者として本学会員以外の者が参加することは構わないが、非会員の場合は、助成の採択決定次第、当会に入会申請することを条件とします。

② 助成対象

助成対象の研究課題としては、先の目的を達成するための学術的研究にとどまらず、実践的研究、シンポジウム・公開講座等の研究成果普及活動を含むものとします。**特に、年齢40歳未満の若手研究者、あるいは大学院生(年齢を問わない)による応募、複数会員による共同研究の応募を求めます。**また、**他の研究助成資金を組み合わせた研究課題も助成対象とします。**

③ 助成条件

各年度、**原則として10月1日から3年後の9月30日までの期間に終了する研究課題(研究期間：最長3年)**として募集します。各年度に申請された応募に対し、2件以内の優れた研究課題に対して1件当たり20万円を上限とし研究助成します。

④ 応募書類の提出

各年度、原則として6月30日(当日消印有効)を応募の締め切りとし、「研究助成申請書」を、日本貿易学会事務局宛に提出する。**本年は、8月末を締め切りとします。**

⑤ 助成金の使途

研究実施に必要な図書・備品などの物品費、旅費・交通費、謝金、その他経費(消耗品費、通信費など)とする。物品費、謝金は合計金額の2分の1以下とする。なお、助成期間終了後、事務局あてに使途明細を提出することを求めます。

⑥ 成果の報告・発表

研究助成として採択された者は、研究成果を助成期間終了の翌年度の全国大会までに発表し、研究年報で報告することを義務とします。

⑦ 助成の決定

研究課題の採否の決定は、理事会が選任した**研究助成審査委員会(委員3名)**で審議の上、最終的に理事会で決定します。

⑧ 応募者不在の場合の対応

当該年度に応募者が不在の場合は、助成を実施しません(次年度に繰り越さない)。

⑨ 助成金の支払い方法

助成金は、2回に分けて支給する。全支給額の半額を採択決定後、1カ月以内に研究代表者が指定する銀行口座に半額を振り込み、残りは成果報告の後とする。学会における成果報告時に、研究助成審査委員会が、研究内容が当学会の期待する基準に満たないと判断された場合には、残りの助成金の支給を取りやめることもあります。

助成金の主な使途

※この助成金は、その研究等に直接必要な費用に使用し、諸給与などの経費は除くものとします。項目別に研究に必要な予定金額を記入し、助成金で充当する費目（総額 20 万円）を記入してください。

なお、記載費目に関しては、使用使途に応じて適宜挿入・修正して作成してください。

費目	当助成金の 充当費目に○印	金額(万円)	備考（内容や内訳等を記載）
会議費		万円	
旅費・交通費 (海外)		万円	
旅費・交通費 (国内)		万円	
図書資料費		万円	
消耗品費		万円	
謝金		万円	
その他		万円	
総額		万円	
研助成金申請額		万円	

6. 研究実施期間

(西暦) 年 月 ~ 年 月

助成申請に係る申請書など書式は、ホームページからダウンロードしてください。 http://jaftab.org/?page_id=1002
署名、捺印を必要としますので、郵送にて申請してください。

他の外部資金（科研費や他の研究助成）との兼ね合いをしっかりと見極めて、コンプライアンスの維持、研究倫理に対する信義誠実をお願いします。

上記照会事項は、事務局宛にご連絡下さい。尚、加藤孝治前理事には、本案件の円滑な運営の為、役員降板期ではありますが、担当幹事として就任して頂いております。

内規などについては、学会ホームページをご覧ください。



5. 会員動静 (以下順不同 届け出順)

WEB公開分

個人情報保護の為、
このページの記事は、
割愛致しました。

6. 論文投稿依頼

(1) 研究論文(リサーチペーパー)へのご投稿を下記の通り募集致します。募集は、①論文は、全国大会・部会での研究報告者、②研究ノート(研究報告は必要要件ではありません)、③書評、④研究成果報告(学会研究助成を受けたもの)です。

締切期日 2019年9月30日(当日消印有効)

公表予定 随時(発行日は2020年3月の予定です)

投稿論文の使用言語は日本語または英語とする。日本語の場合は15,000字以上20,000字以内、英語の場合は5,000語以上7,000語以内とする。ただし、大量のデータや資料を伴う場



合は、合計 30,000 字(英語の場合は 10,000 語)を限度として編集委員会が認める場合があります。ホームページに掲載の「論文テンプレート http://jaftab.org/?page_id=1002」を使用して執筆して下さい。なお、提出先等の詳細は、学会ホームページをご高覧下さい。 <http://jaftab.org/?p=950>
3 月末にも締め締め切りがあります。

(2) 学会誌(ジャーナル)へのご投稿を下記の通り募集致します。募集は、会員により執筆された研究論文のみです。

締切期日 2019 年 9 月 30 日(当日消印有効)

公刊予定 2020 年 3 月末

投稿論文の使用言語は日本語または英語とする。日本語の場合は 15,000 字以上 20,000 字以内、英語の場合は 5,000 語以上 7,000 語以内とする。詳細は本誌執筆要項に従うものとする。

日本貿易学会誌(ジャーナル)／ 日本貿易学会研究論文(リサーチペーパー)投稿票

執筆者名	日本語	
	English	
所属	日本語	
	English	
タイトル	日本語	
	English	
文字数	日本語 (15,000 字以上 20,000 字以内)	字
	English (5,000 語以上 7,000 語以内)	words
審査部門 (いずれかに○をしてください)	1. 学会誌	2. リサーチペーパー
連絡先	(共同論文の場合は代表者) 郵便番号： 住所： TEL： e-mail： FAX：	
備考		

※過去に類似した論文を發表している場合は、タイトル、掲載誌名等を備考欄に記入して下さい。

※共同論文の場合は、すべての執筆者名と所属を記入して下さい。office@jaftab.org 宛

※提出日が受領日 査読終了・掲載可の判定日が受理日となります。

7. 部会活性化について

現在、西部各地で開催される部会が、他の学会との共催にて行われることが多くなりました。これは、部会への出席者が低調な事が主な原因です。会員夫々の専門の研究分野が細分化し、興味の無い報告にはご出席されない方が多くなった風潮もあります。

当学会には、会則に記載されております通り、地方部会のほかに専門部会も設置されております。会員諸氏の中で、専門部会で、自らの研究を深めたいとお考えになられる方、また、ご関心のある方は、事務局宛に、ご一報下さい。

今後の学会活動活性化、部会活動の活性化を検討してみたいと思います。皆様からのご連絡をお待ち申し上げます。 ***** 河野) 宛

8. 会員へのお知らせ

① 新入会員の募集

日本貿易学会は、1961年（昭和36年）7月1日設立のグローバルビジネス研究のパイオニア的学会です。最近では、一般会員（広くビジネス・フィールドでご活躍されている方）や大学院博士前期課程の院生を受け入れるための会則変更を行い、広く貿易にご関心のある諸氏を募っております。現会員の皆様の周辺におられる方で、ご興味のある方をご紹介いただきたく、よろしく願いいたします。

貿易のほか、国際ビジネス、国際マーケティングから物流・金融などの領域まで、幅広い分野が対象となります。また、大学関係者（教員、大学院生）のほか、企業で調査・研究をされている方、及び、直接実務に携わる方にも、お声掛け頂きますようお願いいたします。

② 学会活動への参加について

会員の皆さまにおかれましては、全国大会及び東部・西部の各部会において、積極的に参加し、発表頂きますようお願い致します。学会の活動が活発になることで情報交流の意義が高まります。会場にて報告者の発表をお聞きになり、見聞を広めるだけでなく、懇親会で会員相互の親睦を図って頂くことも、学会に参加していることの意義です。会員各位が、積極的に学会の場を活かし自らの研究成果を報告して頂きますよう、併せてお願いいたします。

2019年5月25日（土）役員選挙において理事の半数が改選となり新理事が決まりました。翌5月25日（日）には新理事会が開催され、互選により第28代会長に吉岡秀輝理事が選出されました。詳細は、学会ホームページをご高覧下さい。

● 会費納入のお願い ●

本年度の会費（10,000円、シニア会員・大学院生5,000円）の納入をお願い致します。また、過年度分が未納の方は、併せて納入頂くようお願い致します。

郵便振替口座 00100-9-513578 日本貿易学会
他行から振込の場合 〇一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0513578

● 住所等変更について ●

会費の問合せ、登録住所・所属・メールアドレスの変更がございましたら、学会事務局までお届け下さい。

日本貿易学会 会員係

E-Mail : jaftab@mynavi.jp Tel : 03-6267-4550 FAX : 03-6267-4555

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイドビル 9F (株) 毎日学術フォーラム内